京まち工房

（財）京都市景観・まちづくりセンター　ニュースレター

FALL 情報交流誌 no.4

パートナーシップで進めるまちづくり

共同建て替えでよみがえる袋路

～玉屋・山三小路の再生事例～

京都市の都心部には約3千か所袋路（幅員4m未満の行き止まり通路）があり、これらの袋路に面して約1万6千戸の住宅があると推定されています。

これらの住宅の多くは、法規制など様々な要因により、一般住宅のように所有者等の意向によって個々に建て替えることが困難なため、多くの住宅は老朽化し、居住者は高齢化しています。

このため、京都市では都心部での人口回復、高齢化対策、コミュニティー再生による都心活性化等の観点から、平成3年度から袋路の再生に取り組んできました。

今回の玉屋・山三小路は、まもなく竣工する袋路再生第1号で、お伺いしたお二人の地権者の共同事業として多くの関係者の理解と協力を得て、既存の複数の木造住宅を除去し新しい共同住宅に建て替えられた事例です。

袋路の良さを継承した新しい居住空間の形成に貢献する一方、資金や手続き等、共同建替事業ならではの課題も明らかになり今後の袋路再生の促進に向けたモデルにふさわしい事業として評価されています。

事業概要
所　在　地　京都市上京区一条通松屋町西入る
構造・規模　鉄筋コンクリート造、5階建、延床面積約1,830m²
住宅戸数等　住宅24戸、店舗1
事業手法等　優良再開発建築物整備促進事業、特定優良賃貸住宅供給促進事業
平成9年11月着工、平成10年9月竣工

今回の玉屋・山三小路の地権者であるお二人に、お話を伺いました。

【岩手 勇二 氏】

〈事業に至った動機・経緯〉

建物の老朽化が一番大きな理由ですが、建て替えを考えていたとき、京都市が袋路の再生を検討していることを知り、勉強会を持ったことからこの事業が始まりました。

〈竣工を迎える現在の気持ち〉

時間をかけて検討を進めてきたものが完成するのは、感慨深いものがあります。この事業に関して多くの方と出合い、大変充実した時を過ごすことができました。これからは豊かな人間関係が残る昔ながらの袋路の生活を大切にして、21世紀の「路地づくり」をしていきたいと思っています。

〈今後事業を希望される方へ〉

資金面も大きな課題ですが、何よりも情報が大事だと思います。袋路の再生の相談ができる窓口や専門家が必要だと思います。

【三宅 惠一 氏】

〈事業に至った動機・経緯〉

道路との関係から、個別の敷地で建て替えることができない状況でしたから、この事業の話を聞いたときには正直不安もありました。ただ、地権者が二人の袋路ということで、比較的話が進みやすかったと思います。

〈竣工を迎える現在の気持ち〉

従来の居住者5世帯に加え、新しく19世帯の方を迎えるのですが、どのような方が入居されるのかという不安があります。ただ、従来のマンションと異なりコミュニティーが形成されやすい工夫がされています。希望としては若い世帯に入居してほしいものです。

〈今後事業を希望される方へ〉

お互いの土地を利用した土地の有効活用ができました。袋路が再生されると、まちがきれいになるうえ、道路や通路が確保されて防災の面でも格段に進展します。

あなたのまちづくり 拝見

安寧・梅逕街づくり懇談会 〜都心に息づく手作りのまちづくり〜

住民主体のまちづくりを様々な観点から紹介するこのコーナー。京都では、大通りから一歩入れば、生活感溢れる細い路地や多くの史跡があります。今回は、そんな都心に息づくまちづくり活動を拝見します。京都駅近隣（徒歩約10分）という都心で、温かい手作りのまちづくり活動を展開している安寧・梅逕街づくり懇談会を紹介します。

都心の中の歴史と文化

堀川七条の西本願寺の南側。国道１号でもある堀川通から１本西の西堀川通。古くから市が開け、本願寺の門前町として賑わいを持ち続けた職人と商人の町、安寧・梅逕。西八百屋町や鎌屋町、金換町などの町名にも名残があります。西本願寺大玄関門から伸びる猪熊通を中心に歴史を刻んできました。

西本願寺大玄関門から伸びる猪熊通

安寧・梅逕街づくり懇談会の活動

しかし、若者の減少や高齢化の進行により地域の活力が低下し、「このままでは私たちのまちに住めなくなる」と、安寧・梅逕街づくり懇談会（約30名）が動き始めました。

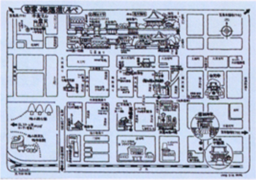
安寧・梅逕街づくり懇談会は、昭和23年の新制中学制度により梅逕小学校が中学校となった後の安寧小学校の「安寧校下」を対象としており、主に南北は七条通〜JR間、東西は西洞院通〜大宮通を舞台に活動しています。

道しるべマップの作成

地区ではマンション建設や独居老人（約120名）が多いこと等の課題を抱えているのですが、まず地元の人に、私たちのまちは歴史と伝統があるということを認識してもらおうと「安寧・梅逕道しるべ」という史跡や商店の掲載されているマップを作成することにしました。作成するにあたり、地元の商店より出資を募りました。商店も「まちが活性化するなら」と創業200年の老舗から洋食屋まで20店の協力が得られ、平成10年３月にマップは完成しました。

マップは地元の交番や郵便局、近隣の社寺仏閣や隣接するホテルなどに置かれています。

このマップにより地元の住民が歴史・文化を再認識するだけでなく、西本願寺に訪れた観光客も地域に足を運び、史跡を散策したり食堂などを利用したり、地図を片手にそぞろ歩く姿が見られるようになりました。また興正会館に合宿にきた小学生80名で、地元の銭湯が大変賑わったというエピソードもあります。



お年寄りが元気！

安寧・梅逕の特徴としては、お年寄りが元気なことです。カラオケやダンスの愛好会があり、時には地元の食堂等を借り切るなどして活動しています。また懇談会が企画した「安寧・梅逕高齢者卓球同好会」も活発です。週に３日、朝10時から夕方の４時まで、元安寧小学校の元図書室で、たくさんの方が卓球を楽しんでいます。好きな時に来て、好きな時に帰る。ここは地元の高齢者のサロンのような機能を果たしています。同会リーダーの山田良雄さんは「卓球だけが目的ではなく、こうやってみんなが集まり、楽しく話せる場所が必要なんです。地元での交流を大事にしています」と話されました。

安寧・梅逕高齢者卓球同好会にて

安心して暮らせるまちをめざして

懇談会の最大の関心事は、元安寧小学校の跡地。懇談会代表の山内英典さんは「先輩たちが創った小学校です。窓が閉まっているだけでも寂しく感じます。高齢者が多いこの学区。福祉の施設を中心に、ここに地域の人たちが交流するコミュニティーの場が欲しいですね」と話されます。

まちづくりの一環として、地域に一軒だけ残る銭湯で、健康教室が開催されています。講師を呼び、お風呂の効能や健康についての勉強会をしています。銭湯は現在もコミュニティーの核の一つとして考えられています。

また地域住民に呼びかけて「街かどウォッチング」や郷土史家の講演会なども開催しています。

山内さんが話されました。「私たちは、できるだけ幹線道路の内側で生活を送りたいんです。お年寄りが幹線道路を横断するのは非常に危険なんです。私たちはまず、地元が元気になって安心して暮らしていけるために、まちづくりを展開し、実績を積み重ねていきたいです」。

安寧学区、梅逕学区の自治連合会での取組についてそれぞれ会長さんにお話を伺いました。

■安寧自治連合会会長　西川千大さん

安寧学区は歴史と伝統があるまちです。自治連合会が主体で、梅ヶ枝の手水鉢など様々な史跡の発掘を行ってきました。史料では新撰組最後の屯所が学区内の不動堂町近辺にあったと記していることから、今後はこの場所の確定と史跡の発掘をしていく予定です。これら史跡を巡る回遊空間を整え、京都駅から多くの人を迎えたいと考えています。また史料や古くからの生活道具を収集し、元安寧小学校に展示しています。

■梅逕自治連合会会長　榎　哲朗さん

梅逕学区では、梅逕中学校の空き教室を利用し、今年の10月４日に歴史資料室を開設します。元梅逕小学校に関する史料や生活用具を展示し、後世に伝えていきたいと考えています。小さい学区ならではのきめ細かい福祉活動も活発で、継続行事では独居老人との手作り昼食会や茶話会を毎月行っており、学区民同士のふれあいを重視しています。学区の拠り所の梅逕中学校とのつながりも強く、生徒と共に区内全域の美化に努めています。

お知恵拝借～

自ら考え自ら行うまちづくり

長崎伝習所「塾」活動

市民の自由な発想を生かし、育てる取組が長崎市で行われています。

行政が塾という場を提供して、市民が自ら考え自ら行うまちづくりをサポートし、その活動とともに広がるネットワークを地域の活性化につなげています。

受け身でない主体的な活動

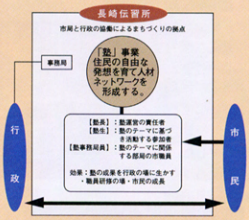
事業の基本的なフレームは、市民の提案によりテーマを決定し、そのテーマのもとにいくつかの塾をつくり、呼びかけで集まった市民が塾生となります。塾活動は単なる講座の受講ではなく、テキストもなければ先生もいません。行政は活動にかかる経費の助成など個面的な支援に徹し、誰が何をするかは塾長を中心に塾生同士でお互いに話し合いながら1年間活動を続けることになります。そこでは、受け身で知識を学ぶのではなく、塾長・塾生が主体的に、塾運営・活動を行う姿勢が求められています。

新しい長崎を市民自らの手で築く

このプロジェクトは、昭和61年度に長崎市と長崎商工会議所の共催で、人材ネットワークづくりと地域の活性化を目的に設立された「ハイテク塾・長崎伝習所」にさかのぼります。名称は幕末に多くの人材を輩出した「海軍伝習所」、「医学伝習所」に由来しています。当初は、異業種交流の場として、海洋開発、都市デザインなどをテーマに「塾」が設置されましたが、昭和62年度には、国際交流、食文化、女性の視点での地域の再発見などをテーマとする塾が生まれ、しだいに長崎再生を模索する幅広い活動の場となってきました。平成3年度からは、市民と行政の協働によって、長崎を創造、発展させる人材の育成と政策を生み出す場として再整備され、現在の「長崎伝習所」の事業フレームに至っています。

塾活動が生みだした成果

平成9年度までの12年間で110の塾が設置され、塾の卒業生総数はすでに3千名を超えています。これまでに、近代文化発祥の地としての長崎に生きた女性たちを研究し、ウォークラリー形式で紹介した活動が地元放送局の事業に受け継がれる、リサイクルイベントの開催が市事業として採択される等のほか、塾の人材ネットワークの中からプリペイド会社が設立されるなどの成果が生まれています。



参加しました！

ほれぼれ出町づくりワークショップ in 出町商店街

住民参加のまちづくりについて実践的手法を学ぶ「ほれぼれ出町づくりワークショップin出町商店街」（同実行委員会主催）が、米国からヘンリー・サノフ教授を招き、5月27日から3日間、出町にて開催されました。

全国から自治体の都市計画の専門家やコンサルタント、大学関係者約100名が参加した、その模様をレポートします（フレンズも参加していました！）。

サノフ教授は、アメリカ合衆国ノース・カロライナ州立大学教授で、先進的な建築家であり、子供のための学習プログラムや環境づくりにおいても豊富な経験の中から的確な指導方法を確立され、デザインゲームの考案者・実践者として世界的に有名な方です。

自分たちの考えを皆の前で発表

今回のワークショップは、出町の具体的なまちづくりを行うのではなく、ここを舞台にして、住民参加のまちづくりの手法としてのデザインゲームについて、「理論」と「体験」を通して実践的に学習しようと企画されたものです。

27日と28日の両日は、午前中に「コミュニティーづくり」「建物と遊び場のデザイン」という講義を受け、午後からは、小人数のグループに分かれ、町並みに合う建物を当てはめていく「町並み保全と町並みあわせスライド尺」、絵記号を使って計画する「アートセンター又は遊び場」というデザインゲームに取り組みました。

現実的かつ具体的、問題点が討議された上で、解決策が明確に構築されていく様は、いかにも米国というものでした。参加者からは「借り物ではなく、日本に適したワークショップを考える時期なのかなあ」。

模型を使っての説明

そこでのサノフ氏の発言から…「日本で行われているワークショップは、ワークショップのためのワークショップ」「ワークショップに参加して市民は情報を得、情報を提供する」「ワークショップの目的の一つは、いかにして専門家の考えを市民に理解してもらうかということ」「市民の信頼を得た専門家の計画や発想は市民に受け入れられる。専門家は市民を受け入れなければならないし、より高度な能力が求められる」「参加者というのは、結局関心のある人」「参加者は課題の"質"により増減する、自分に関わりがあると思うものにしか集まらない」「子供を愛する心は万国共通、子供を通じて親は関心を深めていく、老人は参加するが創造的行動はあまりしない」…。

最終日の29日は、これまでの理論と体験を基に、小人数のグループに分かれてデザインゲーム作りに挑戦しました。出町一帯を歩き回って集めた情報を基に、わかりやすく参加しやすいように工夫をこらして作り上げたゲームの発表会を出町の人達を交えて行い、最後にサノフ氏からの一言は「参加した市民が決定できるような案を提示すること、参加した人からの新たな意見や目標を受け入れることができること」。

こうして充実した3日間のプログラムは終了しました。

後日談

参加した出町の人たちからの発案で、恒例の七夕祭に今回作られたデザインゲームをパネル展示し、地域の多くの方に見てもらうことができました。

京都・学生まちづくりコンクール

～応募説明会を開催　地域学習会・交流会もいよいよスタート～

ゼミ等の学生グループを対象に、都心部の元学区や南部をモデル地区として、地域まちづくりの具体的な提案やイベント等の実施を求める「京都・学生まちづくりコンクール」。6月30日の応募説明会で幕を開け、9月4日には応募登録受付が終了。意見交歓会を経て、いよいよ本格的に地域との学習会・交流会が始まります。そこで、現在進行中の京都・学生まちづくりコンクールについて応募説明会の模様を中心に紹介します。

地域、学生が熱のこもった議論を展開

応募説明会ではまず、南部のモデル地区・高度集積地区について、整備ガイドプランに沿って京都市都市づくり推進課・深井担当課長から説明が行われた後、立命館大学のリム・ボン助教授をコーディネーターに、都心部モデル地区の西陣、富有、明倫の各学区の代表の方々がパネラーとなり、学生とのディスカッションが展開されました。

旗揚げアンケートで学生の現状を探る

「まちづくり活動をはじめたきっかけ、目標は？」の問いに、「小学校の閉校と共に地域のつながりがなくなるのではという危機感から」（西陣）や「とにかく居住している皆さんに、いつまでも住み続けたいという思いを抱いていただきたい」（富有）など。また「ワンルームマンションの住民にもまちづくりに参加してもらいたい？」に対しては、「最近できたマンションからも祇園祭に参加しようという動きがある。これからも互いに意識を交え、心からのまちづくりをしたい」（明倫）といったやりとりが交わされるなど、地域の方々の熱い思いと、非常に熱心に聞き入る学生の皆さんの姿が印象的でした。

自らの地域を熱く語るパネリストの皆さん
（左から明倫学区・秋山会長、富有学区・森会長、西陣学区・吉川会長）

リム助教授は「京都は様々な問題が複雑にからみあっており、この複雑な方程式を解くには、直感やユニークなアイデアも必要」とアピール。学区代表の方も「夢を抱いて、楽しいことを頭に描いて、まちづくりの絵を描いて欲しい。実効性や具体性を持ったものでなくても、大いに我々を刺激していただけたら」と若者の提案に期待を寄せました。

地域をいかに理解しているかがカギに

さて、応募登録された学生の皆さんは、研究・活動計画書をもとに、地域との学習・交流を図りながら作品を仕上げ、12月上旬に自らプレゼンテーションを行います。都心部では地域の皆さんが審査員だけに、作品までの過程や地域の実情をいかに理解しているかがカギとなります。

大学のまち・京都での初の試み。どんな提案、イベントが賞を勝ち取るのか。結果はニュースレター第6号（平成11年3月発行）でもお知らせします。

町家の保全・再生の事例

快適に住まう・・・台所、茶の間を改善

仕立屋　岡田邸（下京区烏丸通六条東入ル一筋目上ル）

仕立屋を営む岡田さんは、かつてはご自身もマンションへの建て替えを考えられたこともあるとか…。しかし、お隣の町家がマンションに建て替えられたのをきっかけに、このまま住み続けるぞ！と決心されました。

お隣の工事の影響により傾いていた家をジャッキアップ等により補修復旧するとともに、以前から奥様の希望であった台所、茶の間にも手を入れられました。内玄関を入ると上にはつるべ、足下には那智黒が敷き詰められ水栓が設置されていて、そこに井戸があったことが忍ばれます。そして台所部分の床を上げ、茶の間とともにフローリングにし、少し長めのシステムキッチンがおかれています。「仏壇の正面にはガスコンロを置けないのでこんなに長くなりましたけど、娘達と一緒に料理するにはちょうどなんですよ」と奥様は話されていました。

家の傾きにより歪んだ庇（ひさし）をボルトで補強

また痛んでいた火袋*の壁を、普通は建材として使用しないコンクリートパネルを使って補修されています。「土壁にコンクリートパネル？」と思っていましたが、実際に見てみるととてもきれいに仕上がっていて、住まいを快適にしたいというお施主さんの気持ちと、それにしっかりと応える大工さんという関係が感じられました。

採光窓から改修後台所を眺める

＊火袋：通り庭上部の吹き抜け空間。台所の煙を抜いたり、火事の際、隣家への延焼を防ぐ。

京町家まちづくり調査に参加して

春から始めました「京町家まちづくり調査」も、いよいよこれから後半を迎えます。前半の調査に参加していただいた調査員の皆さんからの感想を紹介します。

京都工芸繊維大学河邊研究室チーム
阿津川博明

京都生まれの京都育ち、学校卒業後東京で服地の仕事をし、父が呉服商だったため、4年前に決心の末京都に戻る。昔から西洋骨董が好きで色々集めていましたが、京都の歴史、文化に目覚めボランティアに参加。本当の京町家と呼ばれる物のみを抜粋して調査をするのかと思っていましたが、研修セミナーを終えていざ町に出てみると状況が違った。戦前までの木造住宅をすべて調査するのであった。このようなことも理由の一つか、去ってゆくボランティアの方も多い様です。でも、せっかく自分の時間を割愛し、決心をしたこと。小生だけでも最後迄やり遂げたいと思うと同時に京町家に出会うと顔がほころびる今日です。

京都大学東樋口研究室チーム　　**小西智剛**

京都大学東樋口研究室チームは4月から平日を中心に一日1～2チームで調査を行い、先日無事調査担当学区を終了することができました。なによりも地元の住民の方々の熱心なご参加に厚くお礼を申し上げたいと思います。3ヶ月にわたって継続できた一番の原動力は、ボランティアの方々の京都そして町家に対する熱い思いであったと思います。これからもそのエネルギーを京都のまちづくりに生かしていくことが重要だと思います。本当にありがとうございました。

京都木材青年経営者協議会チーム　　**森本陽子**

神戸から調査に参加しました。私にとって、京青協の皆さんと歩いた町はとても新鮮に見えましたが、京都が拠点の彼らでも思いがけない発見があったようです。京都の風習等を教わりつつ、終始楽しい雰囲気の中で動くことができました。実際町に出て行う市民参加の調査は、町に対する意識を高め、交流を深める力もあります。表へ出て、見慣れた町を改めて見直してみるのも結構いいですよ。

京都府立大学宗田研究室チーム　　**藤田玲子**

・地図オンチ　歩いてたしかめ　上ル下ル
・町の中　あちこちパチリ　なにものぞ
・ろじの前　やめようかなと　しあんあし

匿名希望

私は先に参加していた友人の紹介で途中からでした。何の知識もなく町家に対する興味と好奇心を持っての参加でした。しかし、実際調査に入ると、カメラ、測定、調査票、アンケート配り、住民の方々との対応と思いのほか大変でした。でも私は生涯学習という言葉が好きで、何事にもチャレンジして知っておきたい。そして向学心に燃えていらっしゃる学生さんの指導のもと、われわれ調査員も協力してこの調査が大きく生かされることを切に望んでおります。

京都府建築士会チーム　　**神谷寿一**

ボランティアの人たちと調査活動をしていると新しい発見を得ることができます。建築士の私は、町家の連続した風景について都市の景観形成のための大きな材料として関心を待ち調査に挑みました。しかし、彼らは町家に住んでいる人や社会が関心事の中心的存在であったようです。このように違った立場の人との共同作業は建築士の私に、まちづくりへの取組について新しい視点を与えてくれました。

古材バンクの会チーム　　**伊藤真吾**

・雨しずく　ホワイトボードの　字がにじむ
・おばちゃんの　昔話に　時忘れ
・なぜここの　写真が一枚　写ってない
・町家調査　あしたの京の　白地図づくり

調査反省会の様子

立命館大学乾研究室チーム　　**朝田雅也**

我ら立命館大学乾チーム（別名：西陣調査隊）は、1回生～院生とその他有志が一丸となって町家調査に取り組んでいます。いろいろ不手際もあって頭を抱えることが多いのですが、どうにか西陣学区の調査を終えることができました。引き続き成逸学区の調査にも全力投球で臨みますので、他チームの方も是非お手伝いください。

京町家再生研究会チーム　　**井上大蔵**

京都の町家と町並みは、それを何気なく見つめるだけで楽しい気分にしてくれる。
現代の生活習慣等、構造的にそぐわない面もあるが、散歩好きの私にとって景観的にそのポイントが増えることは町家調査の醍醐味である。

平成10年度賛助会員（平成10年8月末現在。50音順。）

［個　人］

青木　正文
秋山　智則
峯津　六男
伊坂　善明
石原　一彦
井手　正己
糸井　恒夫
稲石　勝之
稲波　良幸
稲本　浩一
井上　雅生
井上　大蔵
岩崎　行雄
上田　修三
植村　博之
大谷　泰一
大西　均
大西　利加子
大橋　浩
大森　實
岡村　虎夫
奥　美里
奥山　脩二
小野　幸一
小山　選一
桂　豊
神谷　潔
川口　東嶺
川下　晃正
川島　三郎
北里　敏明
絹川　雅則
木村　茂和
國井　正之
小島　彩乃
小島　花乃
小西　昭代
阪本　隆哉
佐竹　和男
島崎　耕一
清水　武彦
杉山　義三
高木　勝英
高瀬　博章
武居　桂
武井　佐代里
竹井　隆人
竹林　哲
田村　佳英
寺田　敏紀
寺本　健三
土井　健資
中井　秀和
中川　慶子
中川　健太朗
長田　保士
中村　昌史
西田　祐司
野原　康
橋本　清勇
長谷川　忠夫
長谷川　輝夫
服部　俊幸
濱野　全助
林　建志
東川　敏春
平本　貴子
平本　照子
深井　教夫
福井　博茂
藤本　春治
平家　直美
堀岡　博
正木　敦士
松浦　充
松村　光洋
三木　忠勝
水野　篤夫
南　寛
三村　浩史
宮本　日佐美
森　隆之助
森田　知都子
安本　義正
山口　巌
山口　ひかり
山下　美和
山本　和夫
山本　茂
吉岡　正男
吉田　護
吉田　真由美
吉原　和恵
淀野　実
リム　ボン

［団　体］

アジア航測（株）京都支店
大阪ガス（株）
大阪ガス（株）京滋事業本部
オムロン（株）
（株）オーセンティック
（株）大林組京都営業所
（株）木津工務店
（株）京都科学
（株）京都放送（ＫＢＳ京都）
（株）ジェイアール西日本伊勢丹
（株）ゼロ・コーポレーション
（株）地域計画建築研究所
（株）地域生活空間研究所
（株）西利
（株）日栄
（株）堀場製作所
関西電力（株）京都支店
京セラ（株）
京都駅ビル開発（株）
京都ステーションセンター（株）
京都リサーチパーク（株）
京滋マンション管理対策協議会
清水建設（株）京都営業所
中央復建コンサルタンツ（株）
都市居住推進研究会
中沼アートスクリーン（株）
日新建工（株）
日本電信電話（株）京都支店
花豊造園（株）
松下電器産業（株）公共システム営業本部関西支店京都営業所
ローム（株）
渡文（株）

『まちづくり交流』

市民の多様化するニーズに合致した地域固有のまちづくりには行政だけでは対応が困難になっており、その隙間を埋める役割としてNPOなどに代表される市民活動が期待されています。今回は、市民参加のまちづくりをコーディネートするための取組を進めている（社）京都青年会議所について紹介します。

ひとづくり、まちづくり、地球市民意識の向上をテーマに事業展開

青年会議所の始まり

第二次世界大戦終戦直後、日本の社会が荒廃する中で、現状を１日も早く収拾し、新しい秩序を打ち立てるため、互いに切磋琢磨し、情熱を燃やして「より良い社会」を実現しようという趣旨のもとに集まった青年たちの手によって、東京青年商工会議所（その後商工会議所の制定により、青年会議所と改称）が1949年９月に設立されました。これが日本における青年会議所の始まりです。

このような運動は日本各地の指導的青年層に深い共感を与え、大阪、名古屋、前橋等続々と青年会議所（JC＝JUNIOR CHAMBER INCORPORATED）が誕生し、1951年２月に７都市のJCを会員とし、全国的な統合体として社団法人日本青年会議所が設立されました。

京都JCとは

（社）京都青年会議所（京都JC）は、1951年７月に創立され、（社）日本青年会議所へ第19番目に加入、フランスのパリ青年会議所、香港ユンロン青年会議所と姉妹締結をしています。

京都JCは、会員は京都市内に居住又は勤務する25歳～40歳の青年約330名で、明るい豊かな社会の実現を目指して、指導者としての修練、社会への奉仕並びに会員相互の友情による連携につとめ、政治、経済、社会、文化に関する諸問題を研究し、関係団体と相互に協力して地域経済の発展を図ることを目的として、ひとづくり、まちづくり、地球市民意識の向上をテーマに活動を行っています。

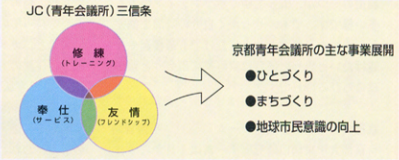
京都JCとまちづくり

特に今年度は、「語れ百年の計　踏み出せ未来への第一歩」の基本理念のもと、重点目標の一つに「まちづくりのキーワードは市民参加」をスローガンに掲げています。

これは、まちづくりを行政だけに任せるのではなく、市民が自分たちの暮らしの中から課題を発見し、市民と行政の協働で問題解決を図っていくことが「市民参加」であると考え、両者の間に立って、そのような「パートナーシップ型まちづくり」のコーディネートを、また、そのために必要な人材育成やサポートするしくみづくりに取り組んでいます。

２月には、新しい時代の市民参加型社会や市民、行政、企業によるパートナーシップのあり方を考える「市民参加型のまちづくりセミナー」を開催したほか、秋には、観光地の景観にマッチした自動販売機をデザインするというテーマで、「パートナーシップ型まちづくり」の手法を学ぶ「まちづくり実践セミナー」を予定しています。

（社）京都青年会議所
〒604-0862　京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都商工会議所６F
TEL 075-241-3241
FAX 075-241-3244
E-MAIL kyoto-jc@mbox.kyoto-inet.or.jp



まちづくり提案

新しいコミュニケーションと人づくり

エニアックインターナショナル
松川恵一氏

まちづくりは、人づくりから始めることが有効であるといわれます。自ら暮らす環境をみんなで考え、自らが行動して一歩一歩進めていくことが大切です。

今回は、マルチメディアを用いた空間プロデュースや、次代のマルチメディアの担い手を育成している「株式会社エニアックインターナショナル」代表の松川氏に話を伺いました。

松川氏は、日本画や細密画、テキスタイルデザインを勉強しながら、コンピューターと出合い、これまでの伝統的な美術の世界に加え、新しい表現方法としてデジタルの可能性を見出しました。そしてベンチャービジネスとクリエーターを育成するために京都リサーチパークや内田洋行等６社で開校した「表現戯術塾」の塾頭を務め、現在はこの経験を生かし「ｄ学校（デジタルデザイン塾）」を開設しています。

ビジネスや生活の中で便利さをもたらすことに加え、文字や絵、音楽などを用いて思いを伝える新しいコミュニケーションの手段であるマルチメディアを利用したビジネスや人材育成の前線で活躍しています。

「デジタルは想いを具現化するマジックなんですよ。ｄ学校では技術を身につけながら教育をしていくという工房スタイルを採用しています。技術と結びついた思考力を身につけて、デジタルを用いながら『粋』なプロデュースができるような人材を育てたいですね」と松川氏は話されました。

松川氏は伝統的なものに従事した体験や感性に加え、マルチメディアを用いた新しい文化の創造と担い手の育成に取り組んでいます。京都という歴史的なまちで、新しい表現方法による文化が息づいてきています。

松川氏曰く、マルチメディアの世界ではデジタルなツールで自らをうまく表現する人が出てきているようです。彼らは、まちづくりでの活躍も期待できます。時代が進み技術が変わりつつも、大切なものは人の「思い」と「行動」なのかもしれません。

お問い合わせ：エニアックインターナショナル
松川恵一
事務局：〒604-8222　京都市中京区四条室町西入ル
一筋目上ル観音堂町467
TEL：075-213-3880

ニュービジネスの動向

このコーナーでは、ビジネス界で新しく立ち上がった、もしくは企画段階の新発想のビジネスの動向についてインタビューによる紹介を行います。

株式会社
東洋環境技術研究所
代表取締役　廣江愼治氏

－事業内容を教えて下さい。

有機性の廃棄物を、可能な限り残渣（ざんさ）をなくす（消滅を目標にしていますが、肥料にもできます）処理機を開発しました。処理機の大きさは、およそ長さ2m、高さ1.5m、幅1.5mです。100kgの生ゴミを処理するために、1m³あたり約200kgの木材チップを入れ、そこに、バクテリアの入った溶液とミネラルなどの薬を入れます。処理機開発のために、スーパーの生ゴミを使わせてもらって実験をしたのですが、その際一番思ったことは、まだ食べられるようなものが多く捨てられているということです。結局、ゴミ問題とは生活のスタイルを変えなければ根本的に解決できない問題で、複雑な社会問題を含んでいます。そのあたりも認識に入れてビジネスを展開しています。

－微生物による処理に着目されたのは。

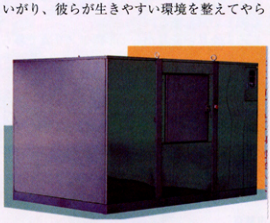
有機性の廃棄物を処理する方法として、大きく「捨てる」「燃やす」「微生物処理」の3つがあると思います。

「捨てる」といういわゆる自然が処理をしてくれるのを待っているという方法は、食料生産と人口のバランスが上手くいっていれば、これだけで十分だと思いますが、今はそうはいきません。

「燃やす」という方法ですが、これは一番手っ取り早いと思われますが、ダイオキシンや炭酸ガスの問題が現在出てきています。

「微生物処理」は「燃やす」と比べて炭酸ガスの排出は約3分の1なんです（1トンの糞尿処理の実験結果から）。また悪臭も発生させません。炭酸ガスの排出量等から見て、私は「燃やす」より「微生物処理」の方が、地球にやさしいといえると思います。

しかし、微生物処理の難しさは、微生物は生き物だということです。焼却処理等はその設備をつくればいいのですが、生き物はかわいがり、彼らが生きやすい環境を整えてやらなければなりません。いい技術とは、いかに人の手を放れているかということが言われますが、そういうことからいうと非常に手間のかかる技術なんです。しかし、手間をかける分、見事な分解をしてくれるんです。



微生物による生ゴミ処理機

－今後の事業展開についてどのようにお考えですか？

今のローカルのコミュニティを考えてみても、ゴミ問題は大きな課題です。また、現状の問題としてコミュニケーションが無くなってきています。井戸端会議をする場所もないし、時間もない。そこで、私が提案したいことは、こういうローカルなコミュニティーに生ゴミ処理機を置いて、地域内の生ゴミはそこの地域で処理する。そこでは、色々と面倒を見る人が必要になってくる。それを元気なお年寄りにお手伝いしてもらう。ゴミを処理してもらいに持ち込むと、そこで一つのコミュニケーションが生まれ、さらに広がりを持ったコミュニケーションへと発展していくのではないでしょうか。また、運ぶコストも押さえられます。お年寄りの地域における役割の確保や生きがいづくりにもなります。

現在のゴミ回収システムに加え、このようなシステムを採用してはどうかと思います。

なお、この処理機では、調整の仕方によって生ゴミを肥料にすることができます。例えばその肥料は、家庭菜園をしている人にお渡ししたり、地域の花壇があればそこで使うことも可能です。そうすれば、地域のコミュニケーションが活発になるだけでなく、ゴミも自然に減っていくと思います。

《センター解説アワー》

NPO法の基礎知識

（NPO法人ってなに？）

NPO法は、1998年3月25日に公布された「特定非営利活動促進法」の通称で、英語のNon Profit Organization（非営利団体）の頭文字をとったものです。営利を目的とせず、自由で自立的に公益的な活動をする民間団体に法人格を付与し、健全な発展を促進していくことを目的にしています。

これまでの日本社会においては、行政が公共サービスの担い手で、市民は受け手でした。市民活動も行政サービスの改善を求める要求運動が中心であり、一部ではボランティア活動として取り組まれてきました。

しかし、近年、市民要求が多様化・高度化し、市民自身が行政サービスの限界を認識するようになり、自らが必要と考える公共的なサービスを自ら提供する市民活動が活発になり、社会的な重要性も高まってきました。とりわけ、1995年の阪神淡路大震災以降、社会的な認知度が高まりました。同時に、こうした市民活動団体の業務量も飛躍的に増え、専門的に従事するスタッフを雇用したり、契約を結ぶなど個人の責任では処理できなくなり、今回のNPO法に結実しました。

（NPO法の概要）

次に、このNPO法の具体的な内容を4点紹介します。

第一に、保健・福祉、社会教育、まちづくり、文化などの12項目の活動分野で不特定多数の利益を図ること主な目的とし、政治、宗教活動を目的としない団体が法人化の対象となっています。

第二に、この法人の所管庁は原則的に都道府県知事であり、他の公益法人のように監督官庁による規制が強くなく比較的、自由な活動が可能です。

第三に、法人化にあたっては、10人の社員（総会での議決権を持つ会員）と必要書類を整えて申請すると概ね4か月以内に認証され、比較的簡単に法人格を取得することができます。

第四に、毎年、事業報告書や会計報告書を所管庁に提出し、これらを公開する義務や納税義務など法人としての責任ある行動を求められます。

この法律の施行は、平成11年1月と想定されており、実際の運用基準は作成されていませんが、いくつかの課題があります。

なかでも、市民団体がこの法律の趣旨を踏まえて、新しい自立した市民社会の形成に向けた積極的な活動を展開し、国民的な支持を得ていくことが最大の課題となっています。

まちづくりセンターとしてもまちづくりの分野でのNPOとともに活動し、市民、企業、行政のパートナーシップのまちづくりを促進していきます。

法人の比較表　（C'sブックレット・シリーズNo.5『NPO法人ハンドブック』）より抜粋

法人名称	特定非営利活動法人（NPO法人）	社団法人・財団法人	有限会社
根拠法	特定非営利活動促進法	民法	有限会社法
設立の方法	認証（認可の一種）	許可	認証（準則）
対象団体の定義	12分野の活動を主たる目的。不特定多数の利益。	公益かつ非営利の団体	営利活動を行う団体
設立の要件	選挙活動や宗教活動を目的としない。10人の社員、資金は不要。	財団で1～5億円の基金。社団で2～3千万円の運営資金（一般に言われるところ）。	300万円の資本金
所轄（監督）庁	都道府県・経済企画庁	主務官庁（縦割り制）	なし
税制上の優遇措置	会費・寄付金・助成金は非課税。収益事業には普通法人並課税	会費・寄付金・助成金は非課税。収益事業には軽減税率	すべての収入に課税

私と京都

（財）京都市景観・まちづくりセンター評議員
リム　ボン
立命館大学産業社会学部助教授・都市政策論専攻，著書に「京都・素顔の住宅地」他

ちょっと他人行儀でいい？

「あなたは，さぞかし，京都のことが好きなんやろうね？」先日ある席上で京都市の幹部職員の方がこういって声をかけてくださった。実は最近，方々でこのような質問を受けることがある。京都のまちづくりプロジェクトの内のいくつかに関わらせていただいているせいであろう。

けれども，これは私にとっては結構答えにくい類の質問なのだ。素直に「そうですねん。京都が好きでたまりまへんねん」と答えれば済むはずのことを，ムキになって，しかも自分でも訳のわからない理屈をクドクドと並べ出すから始末が悪い。

「京都が好きかって？　都市研究家である私にとって，京都というまちは確かに興味深い研究対象ではありますが，私はこの町をなるべく相対化し，かつ客観的に分析すべく日頃努力しているのであります」。

そこには，京都というまちに対して少しでも他人行儀な姿勢を維おうとして，必死になってもがいている自分がいる。まったく馬鹿げた話だ。今日は思い切って，そうなる理由を告白することにした。何のことはない。私は生まれてこの方（39年間），京都以外で暮らしたことがないのだ。そのことがコンプレックスになっているだけのことである。ちょうど，親離れができないまま悶々としている軟弱息子が妙にひねくれて抱くそれと似たところがある。要するに，まだガキなのだ。そのことを思い知らされる出来事があった。国際コンペの表彰式の後のレセプションの場で，総合審査委員長の梅原猛さんから強烈なパンチを見舞わされたのである。

「あんた，何でそないに京都のことに詳しいねん，えっ？そやけどな，あんたはやっぱり外人やな。ほんまもんの京都人にはあんな発想はでけへん」。

褒められたのやら，貶されたのやら，真意は定かではないが，このように言われてみると少し寂しい気もする。

そんな私が9月から1年間アメリカで暮らすことになった。今からワクワクしている。そして，帰って来た時には少しは大人になっているかも知れない。

「やっぱり，京都が好きですわ」と気取ってみたいものだ。けれども一方で，京都に対して「ちょっと他人行儀な姿勢」を保ち続けたい気がしないでもない。

センター語録

名前について

この夏，当センターは，アメリカからベネロピー・クリーグマンという女性研修生を迎え，片言の日本語と片言の米語が飛び交っています。母親がギリシャ神話の主人公にあやかって付けたという彼女の名前は，アメリカでは，珍しいらしく，正確に発音してもらえないそうです。そんなことは漢字を使う世界だけのことと思っていたので，ちょっと意外でした。

日本では，読み方というのは，実際に聞いてみないと分からないことが多く，人名は，その代表格ではないでしょうか。親の想いからすれば，正確に読んでもらいたいし，読みたいのですが…。

地名も人名に負けず劣らず聞いてみないと分からないものが多いのですが，衣棚通，糸屋町，主税町，いずれも京都らしい名前です。町家調査をしていると今まで知らなかったり読み方の分からない多くの名前に出合います。そんな時，町の人からいわれや正しい読み方を説明してもらえると，嬉しくなります。たった一つの名前から物語が生まれるのを知り，京都の奥深さをあらためて感じます。…辞書が手放せない私です。

（景観・まちづくりセンター事務局　T・N）

センターからのお知らせ

賛助会員の募集（平成10年度分）

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

（特典）
- ニュースレター（年4回・季刊）の送付
- ニュースレターでの活動紹介
- シンポジウム，セミナー等への優待

（年度会費）
個人1口：5千円　団体1口：5万円
（平成10年4月～平成11年3月）

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくり活動において，各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

お寄せください　ご投稿・ご意見

ニュースレターを盛り上げるご投稿や，京都のまちづくり，センターに対するご意見・ご提案をお待ちしています。Eメールもご利用下さい。

〈投稿の方法〉

原稿や写真等の資料とコーナー名・住所・氏名・年齢・電話番号・匿名希望の有無（有りの場合はペンネーム）を明記し，「京まち工房」係までお送りください。封書・はがき，又はFAXでも結構です。紙面の都合上，全てを掲載できないこともあります。

（財）京都市景観・まちづくりセンター" 京まち工房 " 案内

〒604-0846　京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452（元龍池小学校内1階南側）
TEL 075-212-4031（しえんさんかひとづくり）
（支援・参加・人づくり）
FAX 075-212-4047
e-mail : kyoto-ws@mbox.kyoto-inet.or.jp
相談の受付等
月～金（祝日を除く）の9：00～17：00
（来所される場合はなるべく事前にお電話ください。
なお，駐車場はありませんので地下鉄等をご利用下さい。

ニュースレター　京まち工房　第4号　1998年9月
編集・発行　（財）京都市景観・まちづくりセンター
印　　刷　日本写真印刷株式会社